





## 「半島の傷跡」展について

この展覧会では、丹那盆地の北西にあるギャラリー KURUBUHI-BASE と南東にある寺院溪月山長光寺を軸堂に見立て、その中にモニュメントを設置しています。

1930年（昭和5年）に発生した北伊豆地震で、震源である丹那断層が南北に左横ずれを起こした際、断層の西側（KURUBUHI-BASE側）は南へ、東側（長光寺側）は北へずれたことから、このモニュメントは、そのずれの方向を指し示す矢印となっています。モニュメントがそれぞれ赤と青で着色されているのは、方位磁針の色から着想し、北側は赤、南側は青という風に、針に施された色を表しています。

地震発生時、丹那盆地の直下を掘り進めていた丹那トンネルの工事では、断層のずれによって坑道が曲がり、そこでは岩盤が摩擦を起こし、岩肌が鏡面のような表情を見せる「断層鏡面」という現象が観測されました。

2つのモニュメントの片側の面には、それぞれ、左官の工法である現代大津磨きと漆芸の工法である呂色仕上げによる鏡面仕上げが施されていますが、それぞれのモニュメントが面合わせになる側を断層鏡面に見立ててこのような仕上げにしています。モニュメントは、この鏡面が断層線に平行になるよう設置されています。

今回、KURUBUHI-BASE側のモニュメントは、茨城県の左官職人、白石博一さんの指導の下、地元の左官職人、遠藤正美と鈴木政希が、白石さんとともに現代大津磨きに挑戦して完成させました。現代大津磨きは、従来の大津磨きと工法が異なり、完成した表情もシャープでくっきりした映り込みを生みます。それに対するほかの面は掻き落としの技法により荒々しい表情を見せています。

これに対し、長光寺側のモニュメントは、今回の展覧会の企画者である住康平が、漆芸の呂色仕上げによって完成させたものです。漆芸の技法は、木地から仕上げまで何層もの工程を重ねるものです。表面に麻布を貼り、蒔地という技法によって面を強固にし、砥石でその面をひたすら平滑に研ぎ出します。仕上げに色漆を塗り、砥石をどんどん細かいものにしていきながら、最後は磨き粉を手の平につけて磨くと、鏡のような艶と反射が生まれます。鏡面仕上げの面とそれ以外の荒々しい面の表情の違いが左官壁同様コントラストを生んでいます。

それぞれの会場で、モニュメントがどのように展示されているかに注目していただき、両会場を移動する際には、2つの会場の盆地における位置関係や盆地の地形、断層の方角を意識していただくと、このモニュメントの意味が理解できると思います。

## 北伊豆地震と丹那断層

北伊豆地震は、1930年（昭和5年）11月26日午前4時2分に発生した直下型の地震。地震の規模を示すマグニチュードは7.3。震源地に近い静岡県三島市では、震度6の烈震を観測した。震源地は丹那盆地付近。箱根峠の南からはじまり、丹那盆地を通り、南の伊豆市へ伸びる北伊豆断層帯の中でも最も大きい活断層、丹那断層の活動により生じた。丹那断層は、過去8000年間に9回の地震を引き起こしており、平均1000年間隔の周期で大地震を起こすと言われている。この地震で丹那断層は、上下に2.4mずれ、北へ2.7m移動した。地震発生が早朝だったため火災は少なかったが、死者・行方不明者272名など大きな被害を出した。人的被害が目立ったのは狩野川に沿った地域で倒壊家屋が多く、人口7400人あまりの葦山村（現・伊豆の国市）では家屋の全壊率が40%に達し、気象庁の統計によると全壊463戸、半壊420戸、死者76名、負傷者152名を記録した。この地震が起きる前には、伊豆半島沖を震源とする非常に多くの群発地震が発生していた。

## 丹那トンネル

丹那トンネルは東海道本線の熱海駅～函南駅間にある複線規格のトンネル。総延長7,804m。トンネル工事は、1918年（大正7年）に着手され、1934年（昭和9年）に総工費2,600万円（当時）で完成、開通した。この16年にわたる工期の長さや膨大な工費、度重なる事故によって出た犠牲者の数（67名）が難工事を象徴している。トンネル掘削では、大量の湧水が出たが、多数の水抜き坑を掘って地下水を抜く方法がとられた結果、トンネルの真上に当たる丹那盆地では、工事の進捗につれて地下水が抜け水不足となり住民の抗議運動も過激化した。かつては山葵田もあった丹那盆地の豊富な湧水は失われ、丹那地区は酪農への産業転換を迫られることになった。1930年（昭和5年）、三島側から掘り進んでいたトンネルが、明瞭な断層に到達した。断層を突破するため水抜き坑が掘削されていたまさにその時、その断層を震源とする地震（北伊豆地震）が発生した。ある水抜き坑では、横にずれて坑道一杯にきれいな断層鏡面が現れた。北伊豆地震では工事中の丹那トンネルそのものにはほとんど被害がなかった。

### KURUBUSHI-BASE 会場展示

モニュメント MirrorWork-GEO RED 木材、構造用合板、シーラー、石膏系接着剤、下地塗材、石灰、砂、弁柄  
三角柱のうち W3600mm×2面、W1000mm×1面、H2400mm

### 長光寺会場展示

モニュメント MirrorWork-GEO BLUE 木材、ランバーコア、漆、顔料、麻布、地の粉、砥の粉、豆腐  
三角柱のうち W3000mm×2面、W1000mm×1面、H2000mm

### 書籍資料

『駿豆震災誌』静岡県警察部 昭和6年 『北伊豆地震概観』中央気象台 昭和5年 『北伊豆地震報告 全2巻』中央気象台 昭和5年

『丹那トンネルの話』鉄道省熱海建設事務所 昭和8年 『丹那地域風土記』丹那地域風土記編集委員会 昭和45年

『昭和5年の北伊豆地震に学ぶ』田方郡町村会・教育長会・校長会・教育研究会 昭和56年

『闇を裂く道』吉村昭著 昭和62年 新潮社 『伊豆の大地の物語』小山真人著 平成22年 静岡新聞社

資料写真ボード「丹那トンネル開通まで」

資料写真ボード「北伊豆地震と丹那のくらし」

出典：上記書籍資料と石川美代子さん提供による故・石川雅道さん撮影の写真資料より

写真「丹那盆地の眺望」 撮影：内野利江子

映像作品「北伊豆地震とわたし」 出演：相澤功 石川美代子 撮影：瀬戸照済・原田康補 編集：住康平・瀬戸照済